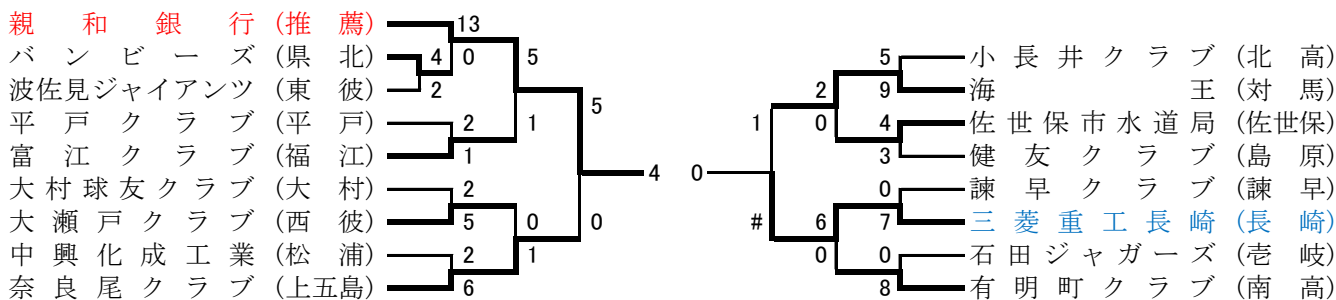


# ベスト4に離島の2チームも親和と重工の壁は厚し

## 第37回長崎県軟式野球選手権大会

会期： 昭和62年10月16日(金)～18日(日)  
会場： A・大橋球場 B・三菱球場



第37回県軟式野球選手権大会第1日の16日は、断続的に降る雨のなか大橋、三菱両球場で二回戦9試合が行われた。大橋球場の第3試合に登場した推薦の親和銀行は波佐見ジャイアンツを4-2で破ったバンビーズを問題にせず13-0の五回コールド勝ちし連続V3に向け上々の滑り出し。平戸クラブ-富江クラブは延長八回一死満塁制となったが2-1で平戸がサヨナラ勝ち。大瀬戸クラブは球友クラブを5-2で、

奈良尾クラブは中興化成工業を6-2でともに撃破。三菱球場は二回戦のみ。遠来の海王は9-5で小長井クラブを倒し、佐世保水道局は健友クラブに4-3で辛勝。三菱重工長崎は7-0の六回コールドで諫早クラブ、有明町クラブは8-0の五回コールドで石田ジャガーズに快勝した。

(昭和62年10月17日付けの長崎新聞より抜粋)

## バンビーズがあっさり逆転

【一回戦】=大橋：第1試合= 振球犠盗失残併

波佐見ジャイアンツ	100 000 1	2	2	1	1	0	1	3	0
バンビーズ	011 101 X	4	5	5	1	2	0	6	0

1時間30分

【本】山口裕 【三】中尾、栗山 【二】前川、山村

【波佐見】打安点

- ④石木 3 1 0
- ⑦前川 3 1 0
- ①8平尾 3 0 0
- ⑥中尾 2 1 1
- ③渡辺和 2 0 0
- H渡辺要 1 0 0
- ②田嶋 3 0 0
- ⑤山口 3 1 1
- ⑧1川浪 1 0 0
- H富永良 1 0 0
- ⑨一瀬 2 0 0

24 4 2

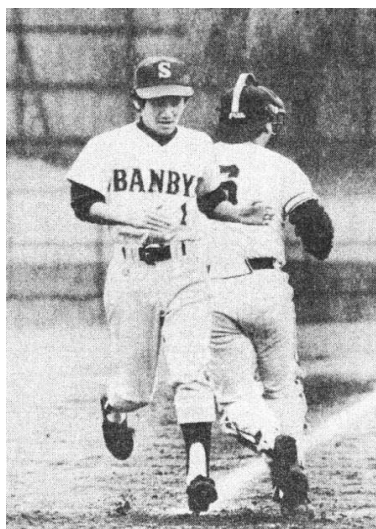
【評】立ち上がり石本、前川の単長打

などで、1点先取の幸先よいスタートを切った波佐見だったが、その後は山村のコーナーワークに、打線が沈黙したまま。この最小点を守り切れる球威は左腕平尾にはない。二回山口裕にソロホームーされ、同点とされたあと三回には四球の走者を置いて、栗山に左越三塁打され、四回には遊失でといった具合に小刻みに加点を許し、最終回の反撃も1点止まりで及ばなかった。

【バンビ】打安点

- ④勢良 3 0 0
- ⑧栗山 3 1 1
- ⑥近藤 3 0 0
- ③森田 2 0 0
- ⑤山口裕 3 1 1
- ⑦児島 2 0 0
- ②山口広 1 0 0
- ①山村 3 1 1
- ⑨松本雅 2 0 0

22 3 3



3回裏バンビーズ一死二塁、栗山の左中間三塁打で二塁から松本雅が逆転のホームイン

## 一死満塁制で平戸クが決着

【二回戦】=大橋：第2試合= 振球犠盗失残併

富江クラブ	100 000 00	1	3	7	1	1	1	9	1
平戸クラブ	010 000 01x	2	4	3	2	2	0	6	1

(延長8回は一死満塁制) 【三】増本 1時間38分

【富江】打安点

- ⑤石山 2 0 0
- ⑥川口 4 1 0
- ⑧田中 4 1 0
- ⑨平山 2 1 1
- ⑦松下 2 0 0
- ④福山 1 0 0
- ③行実 3 0 0
- ②片町 2 0 0
- ①松倉 2 1 0

22 4 1

【評】1-1のまま一死満塁制となった延長八回、富江が0点に終わったのに対し平戸は正木が中前にたたき決着をつけた。

それまでの両軍は初回富江が一死二三塁から平山の左犠飛で先取点を挙げれば、平戸も二回三塁打の増本を井手口の中前打で迎え入れてタイ。その後は膠着状態が続いた。富江は再三の好機を逃がしたのが痛かった。

【平戸】打安点

- ⑧宮田 3 0 0
- ⑦近藤 3 0 0
- ③古川 3 1 0
- ④正木 3 0 0
- ⑨増本 3 1 0
- ⑤森田 3 1 0
- ①井手口 2 1 1
- ⑥山下 1 0 0
- ②作元 2 0 0

23 4 1

【親和】打安点

③久住呂	4	3	3
④高柳	4	1	1
⑨宮添	4	2	1
⑦川崎	4	1	2
⑧上杉	2	2	1
8田中	0	0	0
②黒石	3	2	2
⑥岩崎	2	1	0
6酒井	1	0	0
①佐々田	1	0	0
H竹山	1	1	1
1志賀	1	0	1
1荒金	0	0	0
⑤米倉	3	0	0
30 13 12			

# 親銀、2回に7安打7点

【二回戦】=大橋：第3試合= 振球犠盗失残併

親和銀行	172 21	13	1	1	0	13	0	3	0	(5回コールド)
バンビーズ	000 00	0	8	0	0	0	3	1	1	1時間11分

【本】久住呂 【二】川崎、上杉、竹山、山口裕  
 【評】いきなり久住呂の先制ホームで先行した親和銀行は、二回に7安打を集中、足を絡めた攻撃で一挙7点。その後も攻撃の手をゆるめず五回まで毎回得点。13盗塁と走りまくった。  
 投げて親和投手陣は佐々田が二回まで6人の打者に対して5三振。志賀も三四回をピタリと抑えた。  
 バンビーズは3番手の荒金から山口裕の二塁打が唯一の走者だった。

【バンビ】打安点

④勢良	2	0	0
⑧栗山	2	0	0
⑥近藤	2	0	0
③森田	2	0	0
⑤山口裕	2	1	0
⑦児島	2	0	0
⑨山村	2	0	0
②山口広	1	0	0
①前田	1	0	0
16 1 0			

# 大瀬戸クラブ6回に逆転 大村球友、逃げ切れず

【二回戦】=大橋：第4試合= 振球犠盗失残併 1時間38分

大瀬戸クラブ	010 004 0	5	5	3	0	0	2	5	1	【三】浦上、川崎
大村球友クラブ	100 010 0	2	5	2	0	2	3	4	0	【二】浦上

【評】1-2と1点のリードを許した大瀬戸クラブは、六回一塁から山添の二ゴロを一塁に悪送球した二塁手のエラーに乗じて一三塁の好機を迎え、ここで二回に同点三塁打を放った浦上が左中間を破り逆転。大抜、坂口と長短打をたたみかけて大村の息の根を止めた。

【大瀬戸】打安点

⑥宮口	3	1	0
④北川弘	4	1	0
⑤北川一	4	1	0
3西川	0	0	0
②山添	3	1	0
①浦上	3	2	3
⑦大抜	3	2	1
③小橋	2	0	0
35坂口	1	1	1
⑧田端	2	0	0
⑨宮島	3	0	0
28 9 5			

【球友】打安点

⑧黒川	2	0	0
⑥川崎	3	1	1
①樋口	3	1	1
③林	3	0	0
⑨藤田	3	0	0
②雄成	3	0	0
⑦飯村	2	0	0
⑤中原	3	1	0
④内田	2	0	0
H野田	1	0	0
25 3 2			

【中興】打安点

⑥大崎	2	1	0
②沢田	3	0	0
①久保川	3	1	1
⑤永利	3	1	0
③岩本	3	0	0
⑧末永	3	0	0
⑨橋本	3	0	0
⑦尾野	1	0	0
H石川	1	0	0
④大塚	2	0	0
H幸松	1	0	0
25 3 1			

# 奈良尾・平田が10奪三振 中興化成の守備に乱れ

【二回戦】=大橋：第5試合= 振球犠盗失残併 1時間28分

中興化成工業	200 000 0	2	10	2	0	0	4	4	0
奈良尾クラブ	510 000 X	6	4	0	0	0	2	7	0

【本】森 【三】森、窄口、山脇 【二】大崎、山脇、平田  
 【評】立ち上がり久保川、永利の連打と相手守備陣の乱れで2点を先取した中興化成だったが、その裏に頼みの久保川が森の三塁打をきっかけに山脇以下の中軸に狙い打たれたうえ守備が大混乱。リードをフイにしたばかりか3点の借りをつくる始末。しかも三回から立ち直った奈良尾の左腕平田の切れのよいカーブに無安打。10奪三振を喫して反撃の糸口すらつかめなかった。

【奈良尾】打安点

⑧森	3	2	1
3金丸	1	0	0
⑦窄口	4	1	0
③8山脇	4	2	1
①平田	4	2	0
②宮崎	3	1	0
⑥中田	3	0	0
⑤浜村	3	0	0
④金崎	3	2	0
⑨小柳	3	1	0
31 11 2			

# 海王、6回一気に逆転

【二回戦】=三菱：第1試合= 振球犠盗失残併

小長井クラブ	220 100 0	5	3	3	0	3	3	4	0
海王	110 007 X	9	4	5	1	1	2	5	0

【小長井】打安点

⑤酒村	4	1	1
⑥土肥	2	0	0
⑦平田	4	1	0
⑧村松	3	1	0
②秀島	3	1	1
⑨森	3	0	0
①久保	3	2	0
③黒田	2	0	0
④堤	3	0	0
27 6 2			

【三】久保、竹本 【二】平田、中庭、森崎 1時間47分

【評】3点リードされた海王は六回、四死球や敵失で一死満塁のチャンスをつかみ、吉野が右前へ転がし先ず2点。その後も永留、森崎の長短打や中庭の左犠飛などで一挙5点を加え逆転勝ちした。  
 小長井は一二回に平田、久保の長打で計4点を奪い、四回にも1点を加えて優位にたったが、六回の守備のとき雨脚が強くなり四死球や失策に結びついたのは不運だった。

【海王】打安点

②永留	4	1	1
⑨山城	3	0	0
③森崎	3	1	2
⑥中庭	2	1	1
④毛越	4	1	1
⑦中村	3	1	0
⑧大川	2	0	0
①西田	0	0	0
H竹本	1	1	1
R矢口	0	0	0
1吉野	2	1	2
⑤井	2	0	0
26 7 8			

# 佐世保市水道局が辛勝

【二回戦】=三菱：第2試合= 振球犠盗失残併 1時間39分

健友クラブ	030 000 0	3	6	1	0	0	2	9	0
佐世保市水道局	100 012 X	4	6	4	2	2	1	3	0

【評】佐世保は六回先頭の岡村が三塁線を抜いて出塁。一死後に松浦は左前へ落とし送球の間にそれぞれ進塁し二三塁とした。平川は一ゴロに倒れたが本塁へ突っ込んだ岡村が敵失を誘い一挙に松浦も本塁に滑り込んで

逆転した。健友は二回4安打を含む打者一巡の攻撃で3点を奪ったが、その後は力投する佐世保の岡村から連打を奪えず七回の反撃も三者凡退に終わった。

◇個人のテーブルは次ページに掲載◇

# 三菱がコールド勝ち

【健友ク】打安点

⑥森本	3	1	0
④中村芳	4	2	2
⑨本多照	4	3	0
⑧田中	4	0	0
⑤中村秀	4	1	0
①長谷	4	0	0
②宮崎	3	2	0
⑦松本	3	0	0
③村里	3	1	0
<hr/>			
	32	10	2

【佐世保】打安点

⑧山下	3	1	0
③針尾	2	0	0
H3金谷	1	0	0
①岡村	1	1	1
④本城	3	0	0
⑥松浦	2	1	0
⑦平川	2	0	0
⑨井手	3	0	0
②岸川	1	1	0
R2大坪	0	0	0
⑤豊里	1	0	0
<hr/>			
	19	4	1

【諫早ク】打安点

⑥牟田浩	2	0	0
H6山本	1	1	0
⑨立野	2	1	0
H9西山	1	0	0
⑦野田	3	1	0
③4鶴嶋	3	0	0
②下野	2	0	0
⑤高藤	2	0	0
①牟田政	1	0	0
8田川	1	0	0
④鶴田	1	0	0
H3石本	1	0	0
⑧1針崎	2	0	0
<hr/>			
	22	3	0

【二回戦】=三菱：第3試合= 振球犠盗失残併

諫早クラブ	000 000	0	8	0	0	1	5	3	0
三菱重工長崎	220 021x	7	3	3	0	1	2	8	1

(6回コールド) 1時間31分

【本】川上 【三】川上 【二】高岡、川上、野田  
 【評】三菱重工長崎は序盤から打線が好調。二回までに川上の本塁打や三塁打、高岡の二塁打などで4点を奪った。五回には代わった諫早、針崎の制球難につけ込み有田の中前打で2点を追加。六回には川上の左越え二塁打も出てコールド勝ちを決める1点を奪った。  
 諫早クラブはキレのいいカーブを決める有田を打ちあぐみ五回まではわずか1安打。六回に代打山本の中前打が出たが、後続を断たれた。

【三菱】打安点

⑧北原	4	1	0
④桜木	2	0	0
H3江越	2	1	0
⑦井上	3	0	0
H上内	1	0	0
⑤川上	4	3	2
③高岡	2	1	0
②田中	1	0	0
⑨峰	3	1	0
①有田	3	1	2
⑥本多	1	1	0
H6山口	2	0	0
<hr/>			
	28	9	4

## 有明ク、初回一挙に4点 石田は投手不調響く

【二回戦】=三菱：第4試合= 振球犠盗失残併

石田ジャガーズ	000 00	0	3	2	0	0	1	7	1
有明町クラブ	420 2X	8	1	5	3	0	1	5	1

(5回コールド) 1時間13分

【三】宇土 【二】宇土、吉田浩、本多  
 【評】有明は初回、制球に苦しむ石田の先発沢田を攻め、四球や暴投に2安打を絡めて一挙4点を奪った。続く二回にも宇土、吉田の連続二塁打でさらに2点。四回にはまたもクリーンアップの3長短打で、決定的な2点を加えた。  
 石田は投手陣の不調が痛く、打線も二回以降は2安打だけ。初回到堀江と松尾の連打や真弓の内野安打でつかんだ一死満塁の先制機に、1点も奪えなかったのが大きかった。

【有明町】打安点

②川内	1	0	0
⑤松本	3	0	0
①宇土	3	3	3
③吉田浩	2	2	2
R9菅幸	0	0	0
⑧本多	3	2	1
⑥久次米	1	0	0
⑨杉野	0	0	1
H4松田	1	0	0
⑦木田	1	0	0
H中川	1	0	0
7吉田史	0	0	0
④3前田	1	0	0
<hr/>			
	17	7	7

大会第二日の17日は雨に見舞われた一日目と打って変わり秋晴れの大橋球場で三回戦4試合があり、連続Vを狙う親和銀行はこの大会打撃好調の久住呂の活躍を足場に試合巧者ぶりを発揮し5-1で平戸クラブを下した。第2試合は両チーム譲らぬ投手戦となったが、奈良尾クラブが監督兼任の金丸の

本塁打で得た1点を守り大瀬戸クを振り切った。海王一佐世保市水道局は好機に適時打の出た海王が2-0で辛勝。最後の三菱重工長崎一有明町クラブは終盤、三菱の強力打線が爆発し守ってはルーキーの梅本が有明町クを2安打に抑える好投を見せ6-0で勝った。

## 親和銀行ソツなし 平戸クの守備陣乱れる

【三回戦】=第1試合= 振球犠盗失残併

平戸クラブ	000 000 1	1	3	1	0	0	3	2	0
親和銀行	101 030 X	5	5	3	1	2	1	2	0

1時間22分

【三】久住呂、増本 【二】久住呂、宮添  
 【評】立ち上がり相手守備陣の乱れで労せずして1点を先取した親和銀行は三回には無死二塁打の久住呂が内野ゴロで三進後、宮添のバスター(投ゴロ)でかえり、五回には一死後高柳の死球を足場に岩崎の犠飛を間に久住呂、宮添、川崎の長短打で3点を挙げて平戸クの息の根を止めた。  
 親銀は荒金、志賀、佐々田の3投手を登板させたが、平戸は六回までエラーの走者を一人出したのみ。最終回二死から古川が四球を選び、増本が左中間を破って一矢を報いたにとどまった。

【平戸】打安点

⑧宮田	3	0	0
⑦5森田	2	0	0
H作元昌	1	0	0
④正木	3	0	0
③古川	2	0	0
⑨増本	3	1	1
①井手口	3	0	0
⑥山下	2	0	0
②作元永	2	0	0
⑤近藤	1	0	0
7近藤	1	0	0
<hr/>			
	23	1	1

【親和】打安点

③久住呂	3	3	1
⑥岩崎	2	0	1
⑨宮添	3	1	1
⑦川崎	3	1	1
②黒石	3	0	0
⑤米倉	1	0	0
1佐々田	1	0	0
⑧田中	2	0	0
8上杉	1	0	0
①荒金	0	0	0
1志賀	0	0	0
H5酒井	1	0	0
④高柳	1	0	0
<hr/>			
	21	5	4

# 金丸が決勝アーチ

【三回戦】=第2試合= 振球犠盗失残併

大瀬戸クラブ	000 000 0	0	10	1	0	1	1	2	0	1時間19分
奈良尾クラブ	001 000 X	1	4	4	2	0	0	7	0	【本】金丸

【評】大瀬戸の北川、奈良尾の平田の投手戦となったが、奈良尾が本塁打の1点を守り抜いた。奈良尾三回、先頭打者の監督兼任の金丸が2-3から内角低目の直球を思い切り叩くと打球は追い風にも乗ってぐんぐん伸び左翼席で大きく弾んだ。守ってもエース平田が好投し、キレのいいカーブや伸びのある速球を投げ込み、大瀬戸からも二回戦の中興加成戦同様10奪三振。守備陣の好守もあって許した安打は2本だけ。

【大瀬戸】打安点	【奈良尾】打安点
⑥ 宮口 3 0 0	② 宮崎 3 2 0
④ 北川弘 3 1 0	⑦ 窄口 3 0 0
① 北川一 2 0 0	⑧ 山脇 2 0 0
② 山添 3 0 0	① 平田 3 0 0
⑦ 浦上 3 1 0	⑥ 中田 2 0 0
③ 大抜 2 0 0	⑤ 浜村 0 0 0
⑧ 田端 2 0 0	④ 金崎 2 0 0
③ 小橋 1 0 0	⑨ 小柳 3 0 0
H9 本木 1 0 0	③ 金丸 2 1 1
⑤ 坂口 2 0 0	20 3 1
22 2 0	



3回裏、奈良尾先頭の監督兼任の金丸が左翼席へ決勝本塁打をたたき込む。

大瀬戸の北川も球数は多いながらも要所を締めて奈良尾打線を3安打に抑えたが、そのうちの1本が本塁打では仕方ないところ。北川の失投というよりは、気迫あふれる金丸の巧打を褒めるべきだろう。

【佐世保】打安点

⑧ 山下 3 0 0
③ 針尾 2 0 0
H 金谷 1 1 0
① 岡村 3 2 0
④ 本城 3 0 0
⑥ 松浦 3 1 0
⑦ 平川 2 1 0
⑨ 井手 2 0 0
H 大坪 1 0 0
② 岸川 2 0 0
H 志久 1 0 0
⑤ 豊里 2 0 0
H 中川内 1 0 0
26 5 0

## 海王に適時打

【三回戦】=第3試合= 振球犠盗失残併

佐世保市水道局	000 000 0	0	2	1	0	2	0	6	0	1時間48分
海王	001 100 X	2	1	1	1	0	0	6	0	

【三】松浦、平川 【二】中庭2、井

【評】好機に1本のでた海王が適時打を欠いた佐世保を押し切った。海王は三回二死後、中庭が左翼越え二塁打で二走の毛越を迎え入れて先取点。続く四回にもやはり二死後に井が右中間二塁打を放ち一塁から山城をかえして2点目を奪った。これに対し佐世保市水道局は二回先頭の松浦が左中間を深々と破る三塁打。続く平川も四球後二盗し無死二三塁の願ってもない先制機を迎えたが後続の三人が何れも内野フライを打ち上げ塁上の二人はクギづけのまま。四回一死後には平川の右越え三塁打も出たがやはり本塁を踏めない。六、七回の終盤は、カーブ、直球を丹念に散らす海王、中庭の巧投に三者凡退で交わされ一矢を報えなかった。

【海王】打安点

② 永留 3 1 0
④ 毛越 2 0 0
③ 森崎 3 0 0
① 中庭 3 2 1
⑨ 竹本 3 1 0
9 西田 0 0 0
⑦ 中村 2 0 0
⑥ 山城 3 2 0
⑧ 大川 3 0 0
⑤ 井 2 1 1
24 7 2

【三菱】打安点

⑧ 北原 4 2 0
⑥ 本多 2 0 0
H6 山口 0 0 0
③ 高岡 4 2 1
⑤ 川上 4 1 2
⑦ 井上 3 2 0
H2 奥菌 1 1 1
② 田中 2 1 0
H7 上内 1 0 0
⑨ 峰 3 1 0
H 宇都 1 0 0
9 前田 0 0 0
① 梅本 3 2 2
④ 江越 3 0 0
31 12 6

## 三菱重工打ち勝つ 有明ク、終盤力尽きる

【三回戦】=第4試合= 振球犠盗失残併

三菱重工長崎	010 100 4	6	3	3	1	1	0	8	0	1時間41分
有明町クラブ	000 000 0	0	9	4	1	0	1	6	0	

【二】北原、高岡、川上

【評】二回に下位打線に3連打を喫して、四回には梅本に遊撃内野安打を放たれて各1点を許しはしたが、六回までなんとか三菱重工強打線かわしてきた本多も七回には力尽きた形。すなわちこの回先頭の北原にバントヒットを決められると代打の山口に四球を呈し、高岡と川上に連続二塁打を浴びて大きく差を開かれた。有明打線は梅本のやや荒れ気味ながら伸びのある速球に手を焼き、放った安打はわずか2本。四回までの2点でも重荷だったのだから、七回の失点は致命傷。その裏無死で四球の走者を出したが得点に結びつかず完封された。

【有明町】打安点

② 川内 2 0 0
④ 松本 2 1 0
⑤ 宇土 3 0 0
③ 吉田浩 3 1 0
① 本多 2 0 0
⑥ 久次米 0 0 0
⑨ 杉野 2 0 0
H 菅幸 1 0 0
⑦ 木田 2 0 0
H 中川 1 0 0
⑧ 吉田史 2 0 0
5 永田 0 0 0
H 松田 1 0 0
21 2 0

大会最終日の18日は大橋球場で準決勝、決勝3試合があり、準決勝の2試合は本土チームと離島チームの対戦となった。第1試合は親和銀行が奈良尾クラブのエース平田から効果的な連打を奪い着実に加点。守っては荒金、志賀の若手投手二人が奈良尾打線を相手に思い切りのいい投球を見せ、反撃のきっかけをつかませなかった。第2試合は三菱重工長崎が海王(対馬)投手陣の立ち上がりを攻め初回到4点を先取。その後長短8安打で7点を加え、反撃を本塁打の1点に抑えて

コールド勝ちを決めた。

3年連続同じ顔合わせとなった決勝は、機動力野球が得意な試合巧者の親銀と、一回戦から持ち前の強力打線で相手を圧倒してきた三菱の決勝戦は親銀が四回、四球を足がかりにつかんだ好機に2点を先取して主導権を握り、守ってはエース佐々田が昨年より一段と威力を増した速球、キレのいいカーブで三菱打線を完封して、3年連続6回目の優勝を飾った。

# 親和銀行が主導権 若手投手陣も力投 奈良尾反撃できず

【奈良尾】打安点

②宮崎	3	0	0
④金崎	2	0	0
H金丸	1	0	0
③山脇	3	0	0
①平田	3	0	0
⑧森	2	0	0
⑥中田	2	0	0
⑤浜村	2	1	0
⑦9窄口	1	0	0
⑨小柳	0	1	0
7小森	2	0	0
21 1 0			

◆第1試合◆【準決勝】 振球犠盗失残併

親和銀行	012 001 1	5	5	2	2	2	0	2	0
奈良尾クラブ	000 000 0	0	5	0	1	0	3	1	0

1時間43分

【三】岩崎 【二】川崎、宮添、酒井

【評】親和銀行が効果的な連打で主導権を握り、二人の若手投手もいきのいい投球で奈良尾打線を封じた。

親銀は二回、先頭の川崎が2試合で各10奪三振を記録している奈良尾のエース平田をとらえ右越え二塁打で出塁。続く上杉は絶妙のバントヒットで川崎を進め、すぐ二盗して二三塁。酒井はたたきつける大きなバウンドの遊ゴロで川崎を迎え入れまず1点。チャンスを確実にする親銀らしい攻めだった。続く三回には一死後から死球をバントで進め岩崎の三塁打に宮崎の二塁打で2点を追加した。

奈良尾も何とか反撃のきっかけをつかもうとしたが、思い切りよく伸びのある直球やキレのいいカーブを投げ込む18歳の先発荒金と19歳の二番手志賀の若さあふれる投球に五回まで三者凡退。六回にようやく先頭の浜村が右翼線に落としたものの後続を断たれ1点も返せなかった。

【親和】打安点

③久住呂	3	1	0
④6岩崎	3	1	1
⑨宮添	3	2	1
R2黒石	0	0	0
⑦川崎	3	1	0
⑧上杉	3	1	0
⑥酒井	3	1	2
9竹山	0	0	0
②5米倉	2	0	0
①荒金	1	0	0
H田中	1	0	0
1志賀	0	0	0
⑤4高柳	2	0	0
24 7 4			

# 長短打10本で三菱重工圧勝

【三菱】打安点

⑧北原	3	2	0
④桜木	2	1	1
③高岡	2	0	0
⑤9川上	2	1	1
⑦井上	2	2	5
H7上内	1	0	0
②5田中	2	0	0
⑨峰	2	1	1
H2奥菌	0	0	1
①有田	2	1	1
⑥山口	3	2	1
21 10 11			

◆第2試合◆【準決勝】 振球犠盗失残併

三菱重工長崎	432 20	11	2	6	3	5	1	5	1
海王	000 01	1	0	1	0	0	0	2	0

1時間21分

(5回コールド)

【本】竹本 【三】北原、井上 【二】井上、有田

【評】三菱重工長崎が海王投手陣の制球難にもつけ込み、計10本の長短打で圧勝した。

三菱は初回、先頭北原がフルカウントから右中間を深々と破る三塁打。これに動揺したか海王の先発西田は制球を乱し、3連続四球で先ず押し出しの1点。5番井上はストライク狙いの3球目を右中間に運ぶ二塁打で走者を一掃した。二回以後も三菱は二番手の吉野を打ち込み四回までに8本の長短打で計7点を追加。守っては有田が直球やスローカーブをポンポンと投げ込み海王打線を翻弄した。

海王は立ち上がりの4点が大きいのしかかり、その後も防戦一方。四回まではわずか2安打だったが五回には先頭の代打竹本が有田の初球を左翼席へ豪快にたたき込み一矢を報いた。

【海王】打安点

②永留	3	0	0
⑧大川	2	1	0
③森崎	2	0	0
⑥中庭	2	1	0
④毛越	2	0	0
⑦中村	1	0	0
H竹本	1	1	1
⑨山城	2	0	0
①西田	0	0	0
1吉野	1	0	0
H三山	0	0	0
⑤井	1	0	0
H矢口	1	0	0
18 3 1			



# 親和銀行 3連覇

# 機動力いかし加点 強打の三菱重工完封

佐々田

◆第3試合◆【決勝】 併残失盗犠振球

親和銀行	000 210 100	4	1	7	1	2	1	7	0
三菱重工長崎	000 000 000	0	7	1	0	0	2	5	1

2時間3分

【三】川崎

【評】沖縄国体出場を控えた親和銀行が得意の機動力野球でそつなく加点。守っては堅い守りでエース佐々田を盛り立て強打の三菱重工長崎を無得点に抑えた。

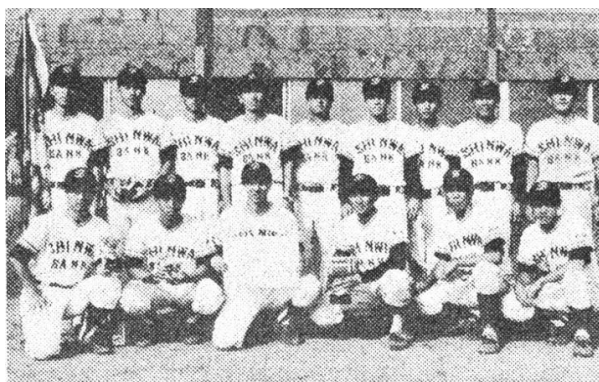
親銀・佐々田、三菱・梅本両投手の好投で両チーム無得点のまま迎えた四回の親銀は先頭黒石がしぶとく粘って四球を選んだ。続く川崎は一二塁間を抜き、二盗も決めて無死二三塁。ここで上杉が痛烈に三遊間を破り二人を迎え入れた。続く五回二死後には左前安打の岩崎を一塁に置いて川崎が右翼頭上を大きく破る三塁打で3点目。七回二死後にも黒石が叩きつける打撃で内野安打を誘い三走の高柳をかえした。

これに対し準決勝まで3試合の相手を集中打で圧倒してきた三菱は、体全体を大きく使い伸びのある速球や鋭いカーブを投げ込む親銀エースの佐々田をとらえられない。五回までは内野安打1本に抑えられ、六回二死後に桜木、井上の連打でつかんだ反撃機も川上が一塁フライに倒れた。結局三菱の安打は5本だけ。

好調の佐々田に加え親和の守備も危なげなく沖縄国体に向け、順調な仕上がりを見せた。



4回裏、親和銀行無死二三塁。上杉の三遊間タイムリーで黒石、川崎が相次いで生還し、2点を先取。



【親和】打安点

③ 久住 呂	4 0 0
⑥ 岩 崎	2 1 0
② 黒 石	3 1 1
⑦ 川 崎	4 2 1
⑧ 上 杉	4 1 2
⑤ 米 倉	3 0 0
5 酒 井	0 0 0
H5 竹 山	0 0 0
⑨ 田 中	4 0 0
① 佐々田	3 0 0
④ 高 柳	3 0 0
39 5 4	

【三菱】打安点

⑧ 北 原	4 0 0
④ 桜 木	4 2 0
⑦ 井 上	4 1 0
⑤ 川 上	4 0 0
③ 高 岡	4 1 0
② 田 中	2 0 0
H 山 口	1 0 0
⑨ 宇 都	2 0 0
9 峰	1 0 0
① 梅 本	3 0 0
⑥ 本 多	3 1 0
32 5 0	

最優秀選手賞	川崎 浩	(親和)
打 撃 賞	久住呂浩司	(親和)
敢 闘 賞	川上 邦英	(三菱)

3年連続6回目の優勝を飾った親和銀行チーム

## 昭和62年の全国大会戦績

天皇賜杯第42回全日本軟式野球大会【54チーム】

9. 12～・広島市、呉市

- 【一】 親和銀行 4-1 越谷市役所(埼玉)
- 【二】 " 8-3 瀬川工業株式会社(開催地)
- 【三】 " 3-4 中筋グループ野球部(島根)

第9回西日本軟式野球(1部)大会【25チーム】

5. 27～・高知市

- 【一】 松浦市役所 7-2 松下ストロングス(京都)
- 【二】 " 2-1 福寿会館(開催地)
- 【準々】 " 5-20 九州電力福岡(福岡)

第42回国民体育大会軟式野球競技会【28チーム】

10. 25～・沖縄県那覇市、糸満市

- 【一】 親和銀行 1-3 日本電気山梨工場(山梨)

第9回西日本軟式野球(2部)大会【25チーム】

5. 16～・京都府宮津市ほか

- 【一】 電 電 大 和 1-5 岸本町体育協会(鳥取)

昭和62年に開催されたその他の競技会の戦績 (一般のみ)

天皇賜杯第42回県予選 6. 27～諫早

安中クラブ(島原)	2
大村市役所(大村)	4 2
バンビーズ(県北)	0 2
南串クラブ(南高)	0 3
親和銀行(佐世保)	1 5
御厨クラブ(松浦)	4 0
三菱重工長崎(長崎)	2 3
東海クラブ(壱岐)	1 1
鴻ノ巣クラブ(東彼)	3 4
海自造修所(佐世保)	4 2
豊玉クラブ(対馬)	1 0
大宰府クラブ(諫早)	6 1
奈良尾クラブ(上五島)	2 0
轟クラブ(北高)	0 0
富江クラブ(福江)	1 4
大瀬戸クラブ(西彼)	6 0
長崎県経済連(長崎)	9 4
平戸クラブ(平戸)	2

第42回沖縄国体県予選 6. 20～佐世保

中村クラブ(大村)	0
長崎県経済連(長崎)	7 7
流星クラブ(島原)	6 2
南串クラブ(南高)	5 0
郷ノ浦ヤンキース(壱岐)	0 7
闘将クラブ(佐世保)	2 1
轟クラブ(北高)	0 3
上五島クラブ(上五島)	5 6
大瀬戸クラブ(西彼)	4 0
島クラブ(平戸)	4 1
鴻ノ巣クラブ(東彼)	2 3
御厨クラブ(松浦)	0 5
ビクトリー(福江)	1 1
長崎県信農連(長崎)	2 3
諫早クラブ(諫早)	1 0
小佐々クラブ(県北)	0 3
親和銀行(佐世保)	7

第9回西日本1部県予選 4. 4～大村

闘将クラブ(佐世保)	1
東芝セラミックス(東彼)	0 5
全江迎(県北)	5 4
千住クラブ(諫早)	0 1
パップンジョン(福江)	3 3
小長井クラブ(北高)	5 0
大村市役所(大村)	0 5
松浦市役所(松浦)	3 5
安中クラブ(島原)	2
不参加(対馬)	1
池島鉱業所(西彼)	5 0
有明町クラブ(南高)	1 2
十八銀行(長崎)	4 1
上五島町役場(上五島)	3 1
島クラブ(平戸)	3
不参加(壱岐)	

第9回西日本2部県予選 4. 12～波佐見

電電大和(佐世保)	2
電源開発(松浦)	0 2
福島クラブ(県北)	3 0
パジャーズ(上五島)	4 2
N T T長崎(長崎)	3 0
センターズ(東彼)	0 4
健友クラブ(島原)	5 8
有馬ルーキーズ(南高)	1 3
管友会(大村)	0 0
志々岐ライガース(平戸)	7 6
ファイヤーズ(西彼)	0 2
諫早市役所(諫早)	4 1
増山建設(福江)	3 7
森山クラブ(北高)	0

第10回九連会長杯県予選 4. 18～島原

小浜クラブ(南高)	0
轟クラブ(北高)	7 0
三菱重工長崎(長崎)	5 0
御厨クラブ(松浦)	0 4
親和銀行(佐世保)	7 5
長崎県経済連(長崎)	5 2
波佐見鴻ノ巣クラブ(東彼)	1 4
N T T長崎無線局(諫早)	3 2
平戸クラブ(平戸)	1 0
海自造修所(佐世保)	0

高松宮賜杯第31回1部 5. 23～対馬

長大クラブ(長崎)	1
菊池病院(松浦)	0 4
豊玉クラブ(対馬)	1 2
大村市役所(大村)	5 0
その美クラブ(佐世保)	棄 6
生月体協(県北)	棄 2
電源開発(西彼)	棄
諫早信用金庫(諫早)	9 1
愛野体協(南高)	0
小長井クラブ(北高)	棄 5
舩田グループ(上五島)	10 1
厳原海王(対馬)	5
安中クラブ(島原)	棄

…九州ブロックで敗退…

高松宮賜杯第31回2部 5. 16～大瀬戸

立串クラブ(上五島)	0
N T T長崎(長崎)	7 7
ファイヤーズ(西彼)	1 0
電源開発(松浦)	8 1
長崎メッツ(東彼)	0 0
飯盛クラブ(北高)	7 0
電通ユニオンズ(壱岐)	4 4
フェアチャイルド(諫早)	13 7
竹寿し(福江)	棄 0
サージャントクラブ(佐世保)	1
電友クラブ(平戸)	0 2
健友クラブ(島原)	1 8
みつるクラブ(大村)	2 1
有家クラブ(南高)	4 4
豊玉コメッツ(対馬)	8 5
吉井クラブ(県北)	1

…九州ブロックで敗退…

第39回県民体育大会 11. 7～佐世保

(北高)轟クラブ	1
(対馬)豊玉クラブ	2 1
(松浦)御厨クラブ	1 2
(平戸)平戸クラブ	2 1
(西彼)大瀬戸クラブ	1 2
(五島)上五島町	5 0
(北松)生月体協	1 1
(壱岐)勝本北星	0 5
(諫早)諫早クラブ	0 4
(長崎)三菱重工長崎	2 9
(東彼)東芝セラミックス	1 0
(南高)南串野球部	5 12
(福江)福江ビクトリー	0 0
(島原)安中クラブ	1 1
(佐世保)九電相浦	0 0
(大村)大村市役所	3